



●学部学生 18,600人 ●大学院生 6,400人 ●教職員 3,480人
ホームページ <http://www.ncl.ac.uk/>

交流協定締結年月日：2020年6月5日 主管学部：医学部



<https://www.ncl.ac.uk/who-we-are/facilities/>より抜粋



<https://www.ncl.ac.uk/study/campus/#library/>より抜粋

国際交流の特色

ニューカッスル大学は、1834年に設立された医学・薬学大学から発展し、現在は総合研究大学として北部イングランドを代表する有名大学となっている。同大学はイギリスの大学でトップ20位にランキングされており、特にイギリス大学ランキング誌The Virgin Alternative Guideにおいては、学生の満足度が非常に高いと評価され、全英トップ10にランクインしている。またその他大学評価機関には「英国で最もフレンドリーな大学」(Friends Reunited Reunion)「英国で最も成功した大学」(The Guardian University Guide)など高い評価を得ている総合研究大学である。医学部のカリキュラムも大変充実しており、1992年から学部学生の派遣を続けているが、医学部学生にも、ますます人気のプログラムになっている。

交流実績（平成31年度～令和3年度）

年度	H31	R2	R3
受入・派遣			
学生の受入	0	0	0
学生の派遣	4	0	0
研究者・職員の受入	1	0	0
研究者・職員の派遣	0	0	0
オンライン交流参加者（本学）		0	0
オンライン交流参加者（相手機関）		0	0



<https://www.ncl.ac.uk/study/campus/#library/>より抜粋

教員からの声

ニューカッスル・アボン・ティン大学と本学医学部との交流は1992年に始まり、1994年以降、学生派遣を継続して実施しています。コーディネーターの Matthias Schmid先生のアレンジのもと、医学実習Ⅱの一環として毎年4～5名の学生を4月～6月の6週間、臨床研修に派遣しており、現地では通常2週間×3科をローテーションします。患者さんの診療に加えて、英国の医師や看護師、同じく臨床実習に参加している現地学生との交流によって、かけがえのない経験を積むことができます。特に令和元年度にはSchmid先生に来日いただき、いくつかの講義に加えて、在校生や過去に同大学に留学した多数のOB・OGを集めて先生を囲む会が開催されました。また、令和2年6月には香川大学医学部とニューカッスル大学医学部間によりやく部局間交流協定が締結されました。一時期、コロナ禍の影響で人的交流を停止せざるを得ない状況が発生しましたが、関係者のご努力により、令和4年4月にいち早く3名の医学科6年生の派遣を再開できました。令和5年春にも派遣を実施する予定であり、交流の拡大が期待されます。

医学部国際交流委員会委員長・教授 和田健司

学生からの声

2022年4月19日から6週間、イギリスのニューカッスル大学に留学し、The Royal Victoria Infirmary(RVI)で呼吸器内科、神経内科、感染症科にて臨床実習を行うとともに、地域のGeneral practitioner(GP)実習(2日間)に参加しました。英国での実習では、常に目的意識を明確に持ち自発的に行動することに励みました。

日本では経験することが難しい疾患や手技も多く学ぶことができ、大変充実した日々を送ることができました。

多くのドクター、スタッフ、患者さんと関わらせて頂き最も実感したことは、患者さんと深い信頼関係を築いた上で成り立つ、問診や身体診察、心の通った深い対話を通じた医療の重要性です。

英国で触れたあたたかい医療を胸に、一人でも多くの人の幸せを実現できるような医師になれるよう一層精進致します。
医学科6年 三宅麻友